

火筒



がんばれ楽歩ちゃん!

1日16時間の猛訓練に耐え「言葉」と「運動療法」を取り戻した10才の少女の愛と涙の奇跡の記録

薬をいっさい使わず、自宅で機能回復訓練をする。彼女の脳性マヒと闘うわが子に、両親はワラにもすがらないで、この治療法を試みた。だが、前転100回以上、踏み込み前達1千メートル、腕立てふせ20回、腹筋運動50回、朝8時に始まり、夜10時まで続く訓練は、幼い少女には苦痛なものだった。そして2年後、訓練のつらさに流した楽歩ちゃんの涙が、いま、愛らしい笑みへと変わっていた。

「1秒速い。楽歩、いいペースだぞ。このままいけば、今日は28分を切るな」

ストップ・ウォッチとわが子を交互に見やりながら、小西直樹さん(41才、京都在住・会社役員)はいつものように声をかける。

33平方メートル余りの自宅訓練室に、激しい息づかいと、床に衣服が擦れ合う音だけが響く。

1周およそ20メートルの室内を40周、連続800メートルを腹はい移動する訓練(クロージング)中の楽歩ちゃん(10)は、父の脇を通過するたびに、苦しい息の下から、「あと何回……?」

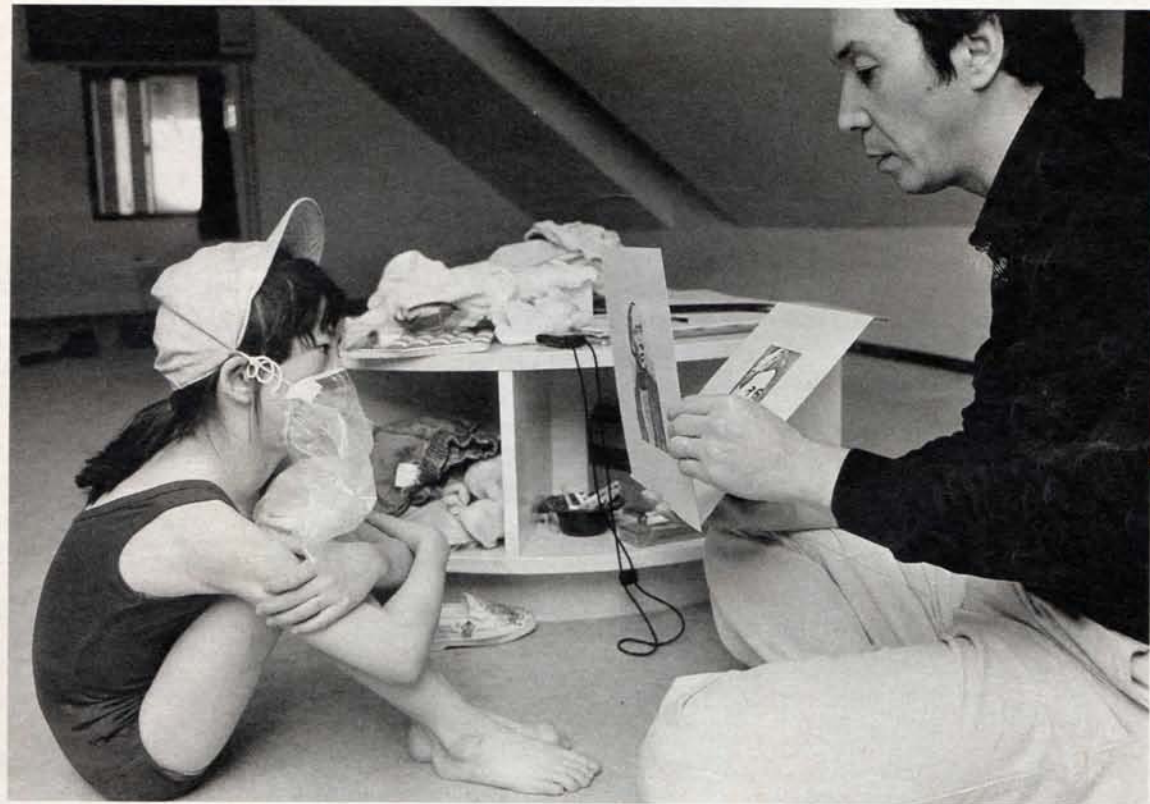
くぐもった声を絞り出す――。

楽歩ちゃんは昭和53年1月14日に、京都市内の産婦人科医院で誕生。9カ月の早期破水による早産だったが、体重2千600グラム、正常分娩だった。ところが、1カ月後、食道閉鎖症に加え、食道から枝分かれた1本の細い管が肺へも通じていて、飲んだミルクの一部が流れ込み、肺炎を併発。生後



激しい訓練のあとを物語る穴のあいた運動靴と膝あて

運動訓練の間も、脳を刺激するための歩行マスクをつけて父と「学習」。人物写真を見ながら、その人の説明を受ける



「終わったあとは気持ちがいい」と笑顔を見せるが、腹はい移動は泣きたいほど厳しい



母・レイ子さんのサポートで新しい運動、横転の訓練中、失敗の連続に思わず苦笑……



人間



間もない楽歩ちゃんは、手術を余儀なくされたのだった。

4時間におよぶ大手術は成功したのだが、安全のために取り付けられた呼吸器に痰が詰まってしまい呼吸と心臓が一時停止。5分ほどで蘇生はしたものの、これが原因で脳性マヒになってしまった。

その後、目を追うことに、話せない、歩けないと障害の程度が激しくなり、失意のどん底の両親が、ドーマン博士(米国)の人間能力開発研究所の門を叩いたのは2年前その日から、朝6時に起きて夜寝るまで、楽歩ちゃんの想像を絶する機能回復訓練が始まった。



連日「ウンテイ」で棒を握る事は、タコと血マメで痛々しい

靴は破れ、手はマメだらけに！



絶え間なく手足をバタバタさせる「バターニング」という運動は、手足と顔の動きを脳に覚え込ませるもの。最低3人の手が必要

両親が望んで、普通学級に¹と入れた小学校も、3年から休学。²機能回復は最初から徹底的に繰り返し、強く継続する。との理論から、父、そして母・レイ子さん(40)、兄・哲哉さん(17)、姉・あゆ美さん(16)の家族はもとより、時にはボランティアの力を借りて訓練は間断なく続けられた。

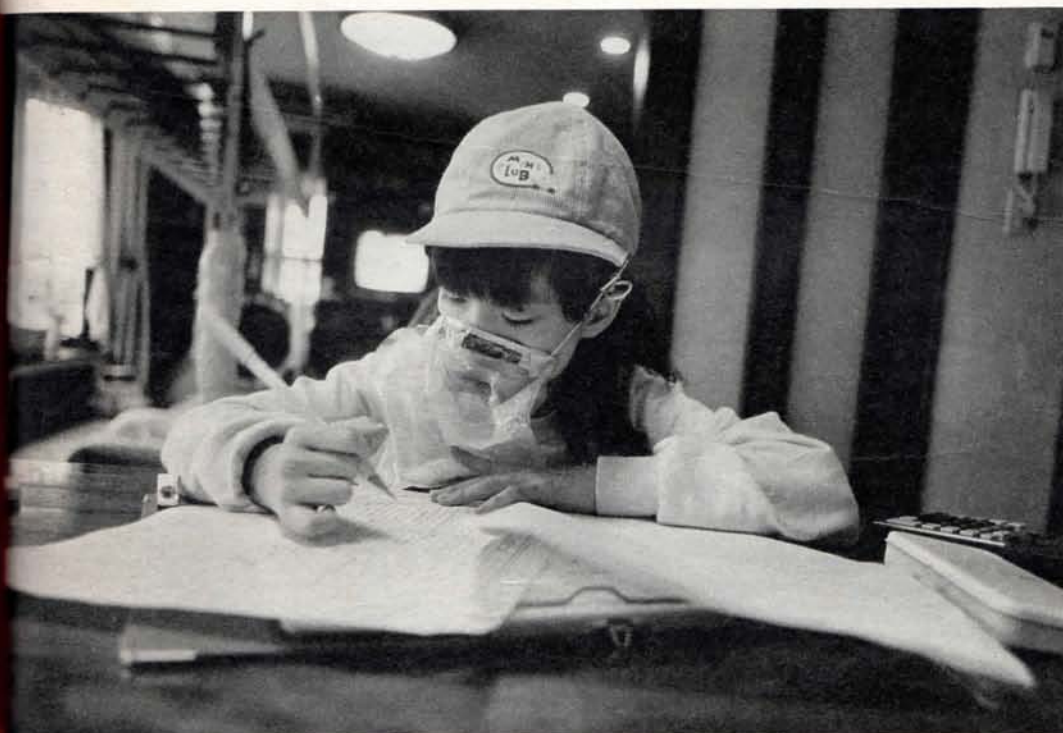
腹ばい移動、高ばい移動、腕立て、腹筋、前転、後転、はしごにつかまっでの歩行・運行など、手に血マメを作りながら、楽歩ちゃん³は頑張った。運動の合間には、脳細胞を刺激するための特製歩行マスク⁴をつけて、知性プログラム(学習)をこなした。

「楽歩の訓練が始まってから、着のみ着のまま夜も寝てしまうほど、体は疲れます。でも、いつ発作が起きたかといってくるかわからない学校からの連絡を待つ生活より、どんなに楽か。何よりも希望がありますもの」(レイ子さん)

それから2年、楽歩ちゃんは、ドーマン博士を驚かすためのバイオリンを習うまでに回復した。



1才のころ、背中を支えられてポーズ。実際に伝い歩きをし始めたのは3才。



幼稚園の卒園式。転びやすいため頭には防御ヘルメットが……



機能回復のチャンスを与えてくれたドーマン博士と



音が出るほどしっかりと弓が握れるまでに3か月
かかった。でも、夢は大きくバイオリニスト？

バイオリンを握ることも困難だったのに……



バイオリンを握ることも困難だったのに……

バイオリンを握ることも困難だったのに……



温かい家族の愛につつまれて。

小西さん一家は、底抜けに明るい。そのなかで、父と母、兄と姉そして楽歩ちゃん、いまの5人がただひたすら待ち望むのは、1年

先か2年先か、卒業と呼ばれる機能回復訓練の終わる日。
もしその日が来たら、父は思う存分、ゴルフを楽しみ、母は好物

のケーキに舌鼓を打つだろう。兄と姉は、頑張り抜いた妹のことを、誇らしげに友に語るはずだ。
夏の青空の下で、楽しく歩ける

ために、いまは血の滲む訓練に明け暮れる楽歩ちゃんは、「思いつ切り、遊びたい！」
瞳を閉じて、楽しみに言った。



小西さん一家には楽歩ちゃんを中心にしっかりとした和が

取材 向井 昭雄 撮影 高野 博